

2023年度 第3四半期

決算資料

2024年2月8日

株式会社 TBS ホールディングス

2023年度 第3四半期決算ハイライト

2023年度 業績見通し

株主還元

今後の重点施策

参考資料

本資料に記載されている将来の当社業績に関する見通しほか全ての内容は、本資料作成時点の当社の判断に基づくものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。

将来の業績は、経済情勢、市場動向、経営環境などの変化により、記載事項と異なる可能性があることに十分ご留意下さい。また、本資料の無断転載はお断りいたします。

◇お問い合わせ先

〒107-8006

東京都港区赤坂5丁目3番6号 株式会社TBSホールディングス 社長室 広報・IR部

Tel : 03-3746-1111 (代表) HP : <https://www.tbsholdings.co.jp/ir/>

2023年度 第3四半期決算ハイライト

2023年度 業績見通し

株主還元

今後の重点施策

参考資料

2023年度 第3四半期決算

- ▶ 連結全体では、増収、営業減益、経常減益。
親会社株主に帰属する四半期純利益は、投資有価証券売却益の増加などにより増益。
第3四半期累計では過去最高の売上高を更新。
- ▶ メディア・コンテンツ事業は、TBSテレビのスポット収入が減収となったものの、配信広告収入や有料配信収入が大幅に伸長。
また、映画の大ヒットや、DVD販売が大幅に増加し、増収。
一方で、放送収入の減収に加え、番組制作費の増加により、減益。
- ▶ ライフスタイル事業は、やる気スイッチグループHDの新規連結を行い、売上高・利益ともに増加。
また、スタイリングライフグループでは、化粧品、雑貨等が伸長したことにより、増収増益。
- ▶ 不動産その他事業は、賃料収入の増加などにより、増収増益。

2023年度 業績見通し

- ▶ 2023年度第2四半期決算発表時（11月10日）より変更なし。

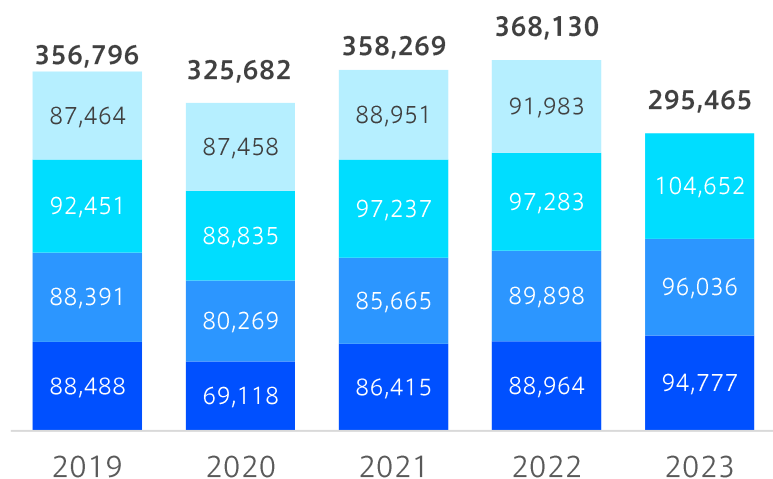
第3四半期 連結損益計算書

▶ 連結全体では、増収、営業減益、経常減益。親会社株主に帰属する四半期純利益は、投資有価証券売却益の増加などにより増益。

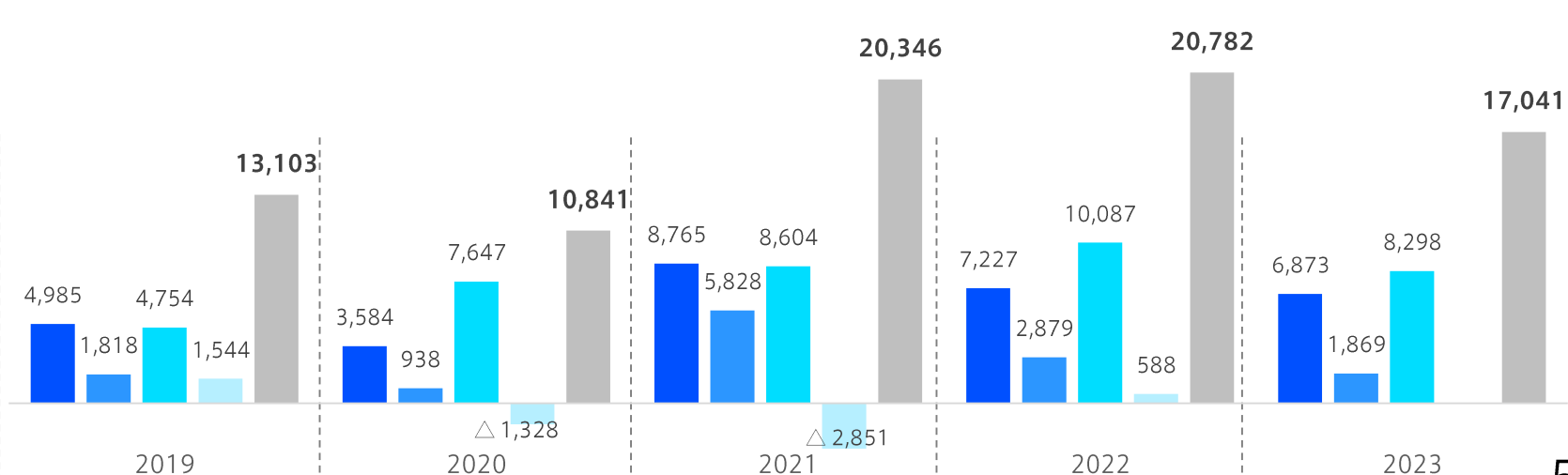
(単位：百万円)

連 結	2022年度 3Q (4-12月)	2023年度 3Q (4-12月)	前年差	増減率
売 上 高	276,146	295,465	+19,319	+7.0%
営 業 利 益	20,194	17,041	△3,153	△15.6%
経 常 利 益	34,101	28,742	△5,358	△15.7%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	21,166	38,319	+17,153	+81.0%

売上高 ■ 1Q ■ 2Q ■ 3Q ■ 4Q



営業利益 ■ 1Q ■ 2Q ■ 3Q ■ 4Q ■ 合計



(単位：百万円)

	外部売上				営業利益			
	2022年度 3Q (4-12月)	2023年度 3Q (4-12月)	前年差	増減率	2022年度 3Q (4-12月)	2023年度 3Q (4-12月)	前年差	増減率
メディア・コンテンツ	213,507	217,576	+4,068	+1.9%	11,588	7,294	△4,293	△37.1%
ライフスタイル	50,279	65,431	+15,152	+30.1%	3,290	3,913	+623	+19.0%
不動産・その他	12,360	12,457	+97	+0.8%	5,307	5,830	+522	+9.8%
調整額	—	—	—	—	8	3	△5	—
連結	276,146	295,465	+19,319	+7.0%	20,194	17,041	△3,153	△15.6%

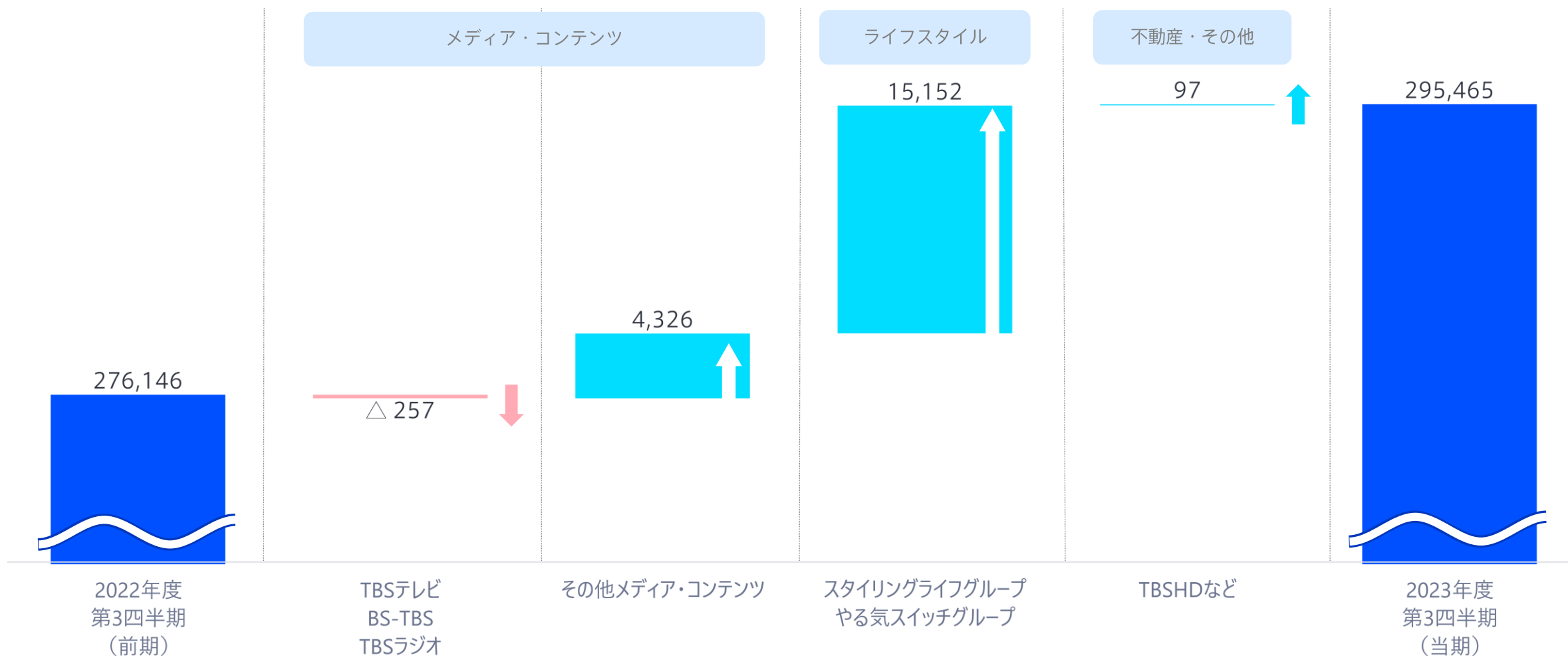
増減要因	外部売上	営業利益
メディア・コンテンツ	TCエンタテインメント (+1,863) TBSグロウディア (+1,230) CS-TBS (+937) TBSテレビ (+277) TBSラジオ (△404)	TBSグロウディア (+1,033) TBS HD (+855) TCエンタテインメント (+306) TBSラジオ (△265) TBSテレビ (△5,032)
ライフスタイル	やる気スイッチグループ (+11,366) スタイリングライフグループ (+3,785)	やる気スイッチグループ (+758) スタイリングライフグループ (+214)
不動産・その他	TBSテレビ (+476) TBS HD (+288) 緑山スタジオ・シティ (△630)	TBS HD (+700)

連結セグメント別 売上高（外部売上）の増減要因

メディア・コンテンツ事業は、TBSテレビのスポット収入が減収となったものの、配信広告収入や有料配信収入の大幅な伸長に加え、映画が大ヒット。また、TBSグローディア・TCエンタテインメントのDVD販売が大幅に増加し、増収。
 ライフスタイル事業は、やる気スイッチグループの新規連結による増収に加え、スタイリングライフグループの化粧品、雑貨等の伸長により、増収。
 不動産その他事業は、賃料収入の増加などにより増収。連結全体でも増収。

■ 売上実績 ■ 増加分 ■ 減少分

(単位：百万円)



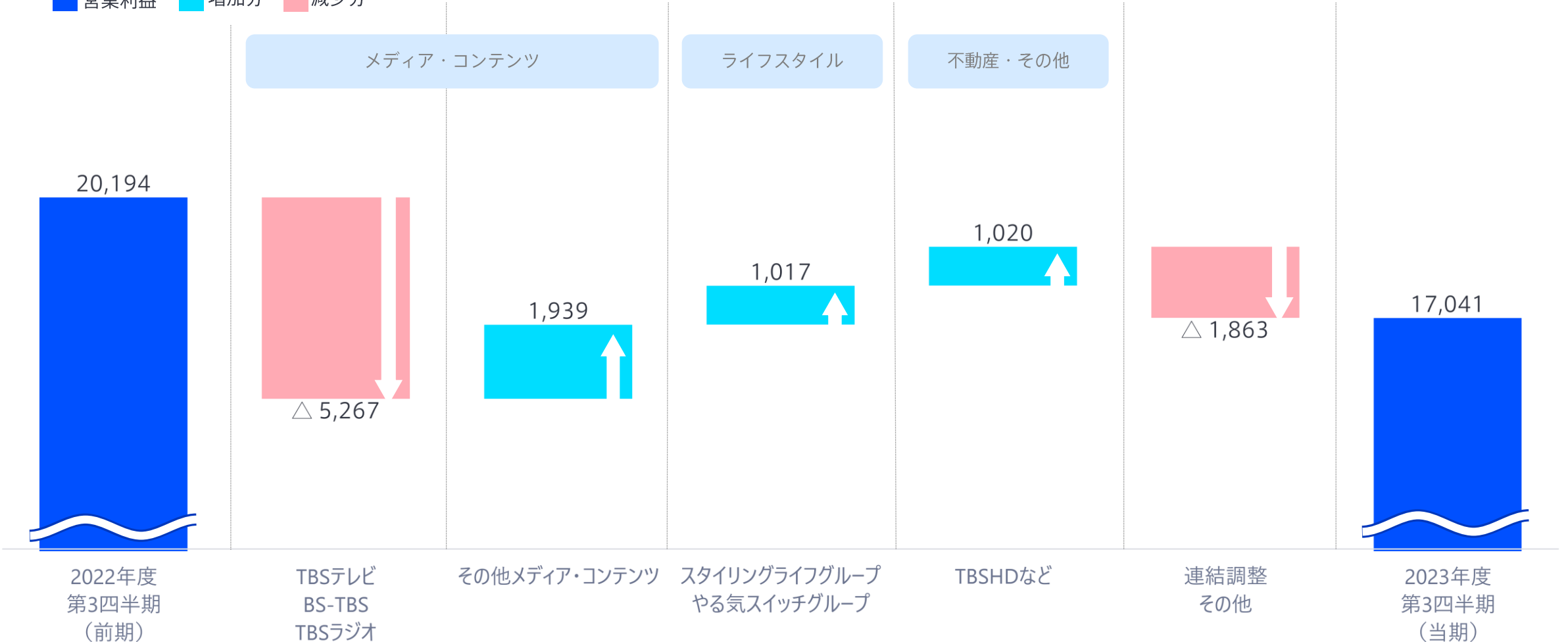
連結セグメント別 営業利益の増減要因



メディア・コンテンツ事業は、放送収入が減少する中、番組制作費が増加し、減益。
 ライフスタイル事業は、やる気スイッチグループの新規連結に伴う増益に加え、スタイリングライフグループの化粧品、雑貨等の伸長により、増益。
 不動産その他事業は、賃料増加などで増益。連結全体では減益。

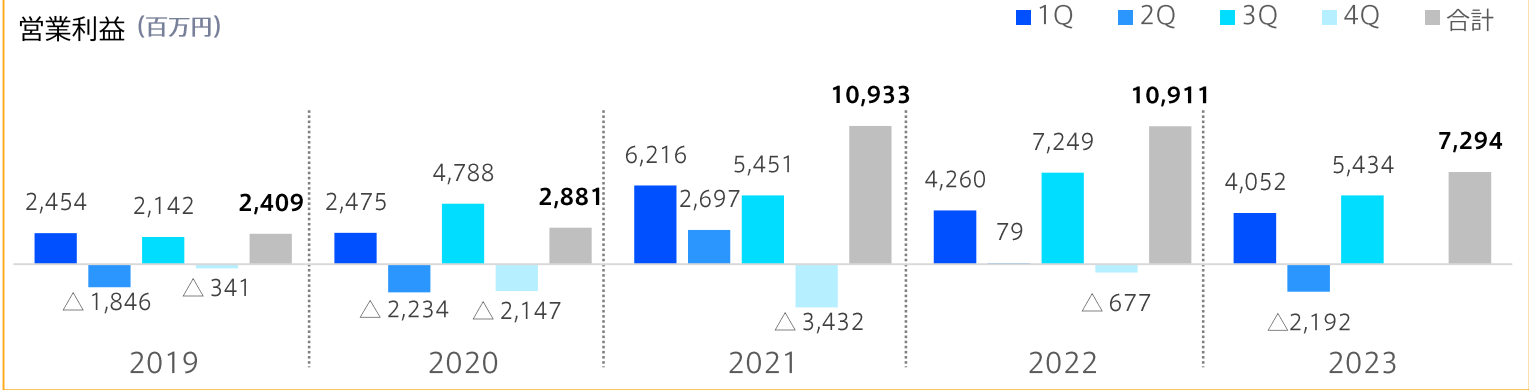
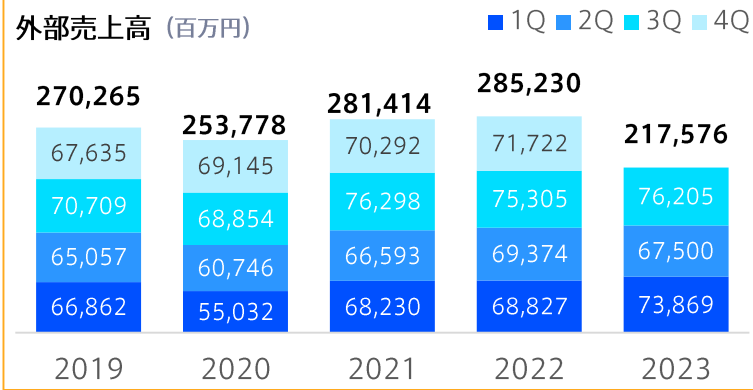
(単位：百万円)

■ 営業利益 ■ 増加分 ■ 減少分

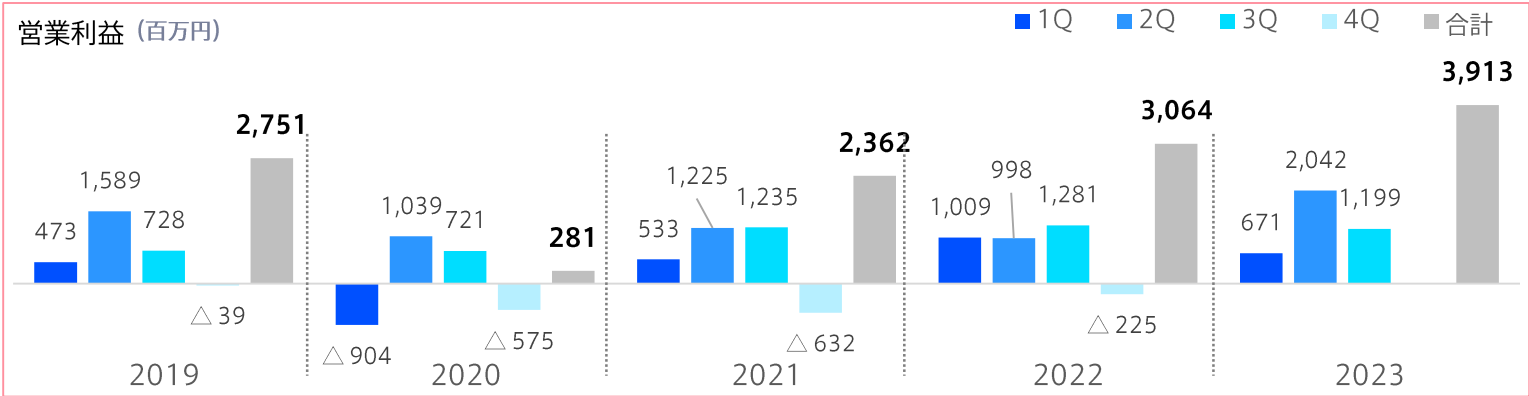
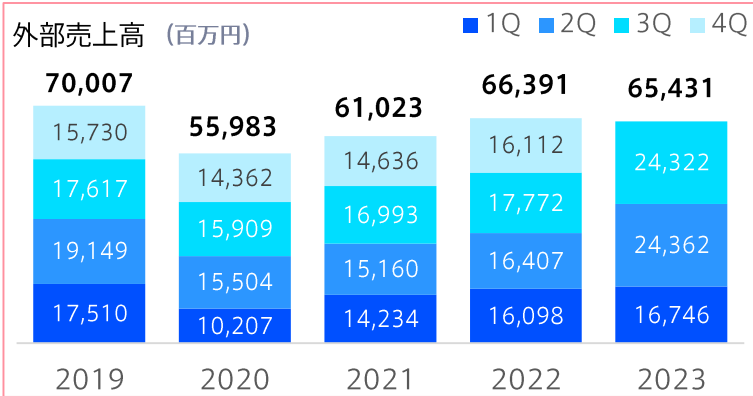


連結セグメント別 経年推移

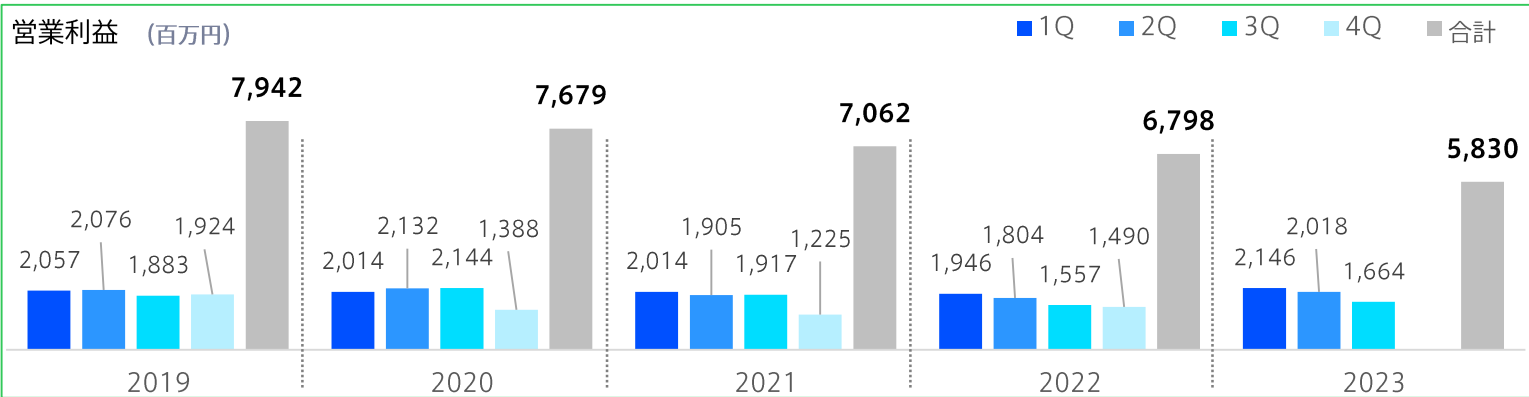
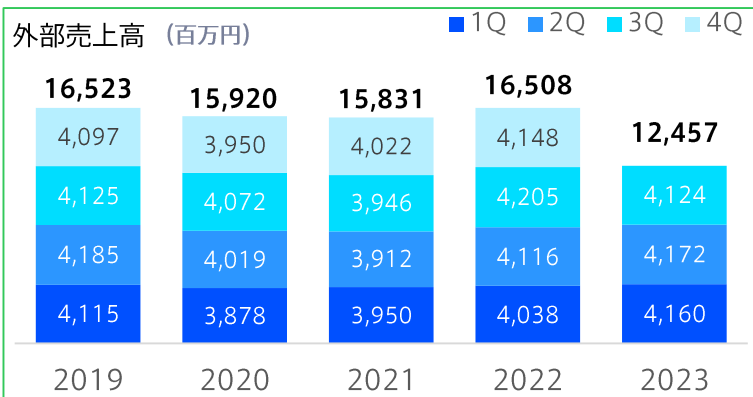
メディア コンテンツ



ライフ スタイル



不動産 その他



2023/12末現在

約1,390億円

2023年度
第3四半期まで
約**660**億円

- やる気スイッチグループホールディングスへの投資
- U-NEXTへの追加出資
- SLH株式取得 など

2022年度
約**230**億円

- 赤坂エンタテインメント・シティ計画への投資
- K-BALLETへの出資
- The Chain Museumへの出資
- Studio TooNの設立
- VOXXの設立
- Amazing Sports Lab Japanへの追加出資
- U-NEXTへの出資 など

2021年度
約**500**億円

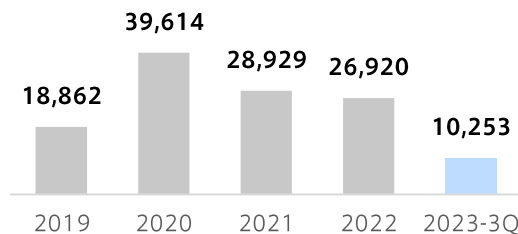
- 海外戦略拠点子会社 (THE SEVEN) への出資
- 赤坂エンタテインメント・シティ計画への投資
- Seven Arcsへの増資 など

中期経営計画
(2021~2023年度)
成長投資予定額
1,400億円以上

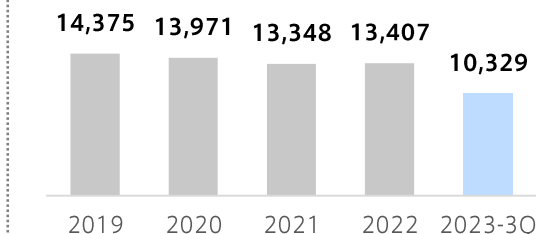
(単位：百万円)

連 結	2023年度 3Q(4-12月)	前年差
設備投資	10,253	△10,161
減価償却費	10,329	+238

連結設備投資



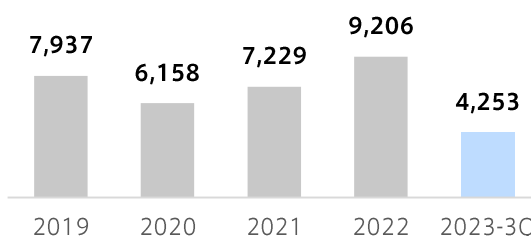
連結減価償却費



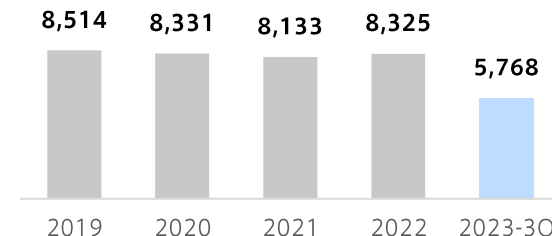
(単位：百万円)

TBSテレビ	2023年度 3Q(4-12月)	前年差
設備投資	4,253	△2,524
減価償却費	5,768	△422

TBSテレビ設備投資



TBSテレビ減価償却費



テレビ部門では、スポット収入が大幅な減収となったものの、タイム収入の大型スポーツ単発や年末特別番組のセールス好調による増収に加え、配信広告収入や有料配信収入の大幅な伸長、メディア事業の移管により、部門全体では増収。

事業部門では、舞台「ハリー・ポッターと呪いの子」の公演日数の増加、劇場版「TOKYO MER ~走る緊急救命室~」の大ヒットがあったものの、メディア事業のテレビ部門への移管、「パリ・サン=ジェルマン ジャパンツアー2022」の反動で、減収。

トータルで微減収。営業利益は、スポット収入の減収に加え、番組制作費の増加などにより減益。経常利益以下も減益。

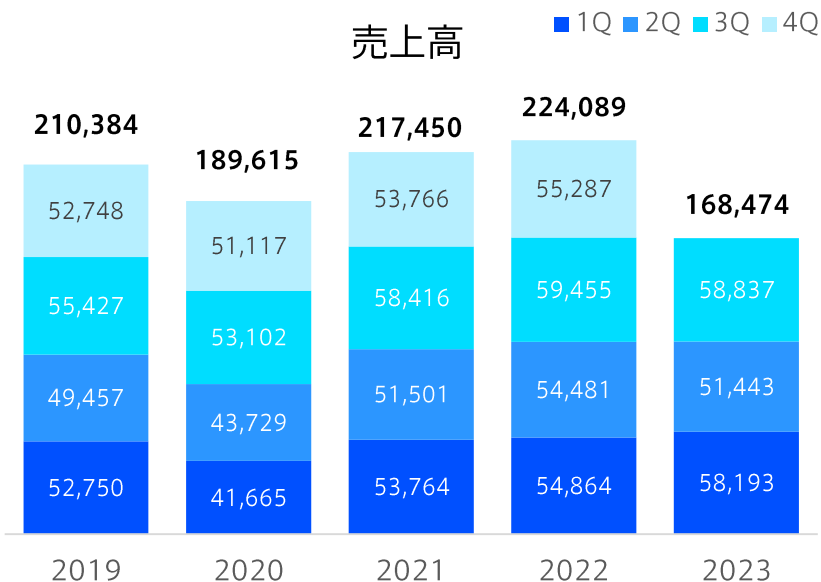
(単位：百万円)

TBSテレビ	2022年度 3Q (4-12月)	2023年度 3Q (4-12月)	前年差	増減率
売上高	168,801	168,474	△327	△0.2%
営業利益	13,402	8,274	△5,128	△38.3%
経常利益	15,627	10,537	△5,089	△32.6%
四半期純利益	10,598	7,578	△3,020	△28.5%

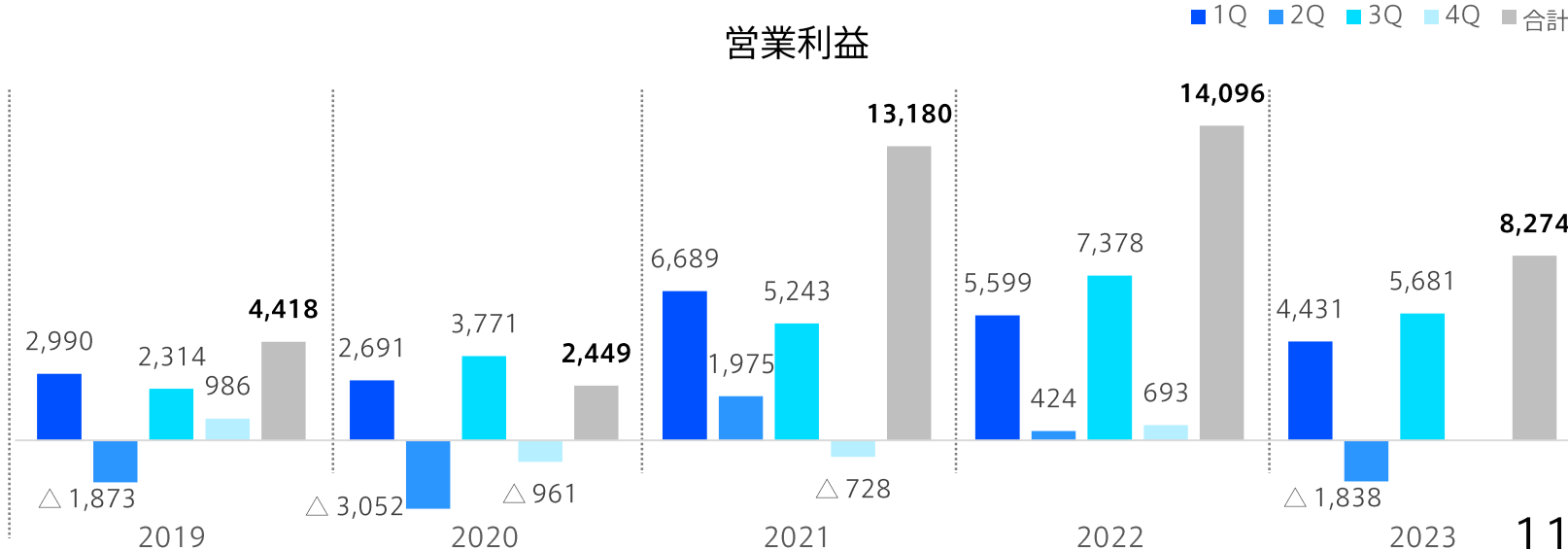
営業費用など

■ 番組原価	+2,929
■ 代理店手数料	△698 (当期21,253)
■ ネットワーク費	+679
■ 事業部門営業費用	△4,668
■ 特別利益 (投資有価証券売却益)	4,478
■ 特別損失 (退職給付費用, 固定資産撤去費用, 投資有価証券評価損)	3,563

売上高



営業利益

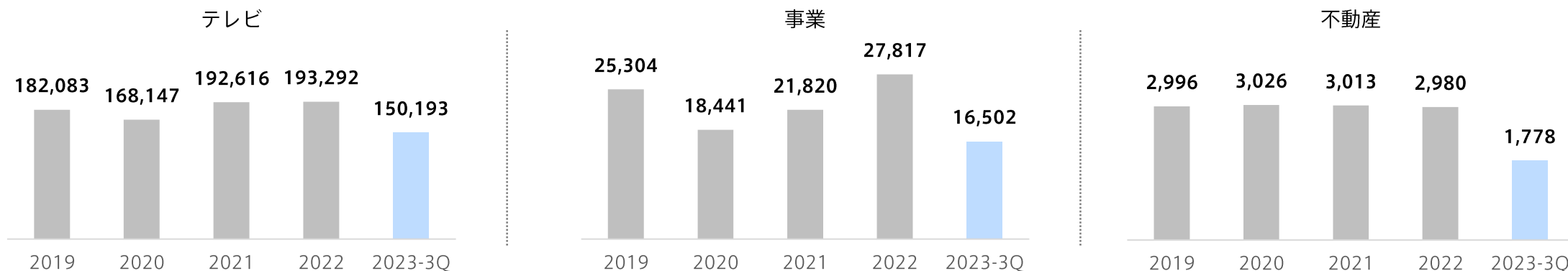


	2023年度 3Q (4-12月)	前年差
テレビ	150,193	+5,456
－ タイム	62,054	+1,581
－ スポット	57,211	△5,306
－ 配信広告	5,769	+1,787
－ 有料配信	9,675	+3,169
－ その他	15,481	+4,223
事業	16,502	△5,296
不動産	1,778	△486
収入合計	168,474	△327

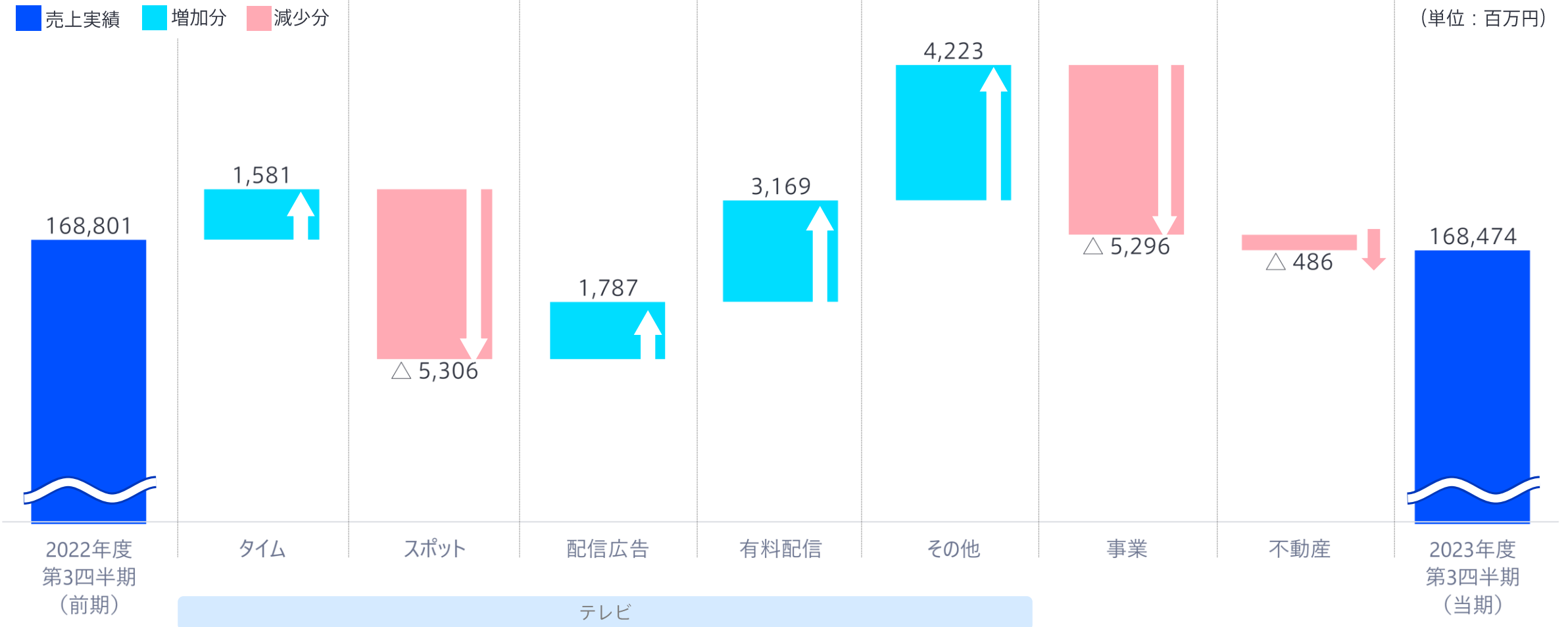
単位：百万円

注1 前第3四半期においてその他区分で開示していた収入のうち、当第3四半期においては有料配信を別掲したうえで、有料配信以外をその他区分で集計しております。なお、前第3四半期について当該変更による組替を行ったうえで前年差を算出しております。

注2 前第3四半期において事業部門に含めていたメディア事業（CS事業）にかかる収入の一部について、第2四半期よりテレビ部門のその他区分で集計しております。なお、前第3四半期について当該変更による組替は行わずに前年差を算出しております。



テレビ部門では、スポット収入が大幅な減収となったものの、タイム収入の大型スポーツ単発や年末特別番組のセールス好調による増収に加え、配信広告収入や有料配信収入の大幅な伸長、メディア事業の移管により、部門全体では増収。
 事業部門では、舞台「ハリー・ポッターと呪いの子」の公演日数の増加、劇場版「TOKYO MER ~走る緊急救命室~」の大ヒットがあったものの、メディア事業のテレビ部門への移管、「パリ・サン=ジェルマン ジャパンツアー2022」の反動で、減収。
 トータルで微減収。



テレビ番組原価（制作費）

▶ ドラマ・バラエティなどのコンテンツ強化および、アジア大会などの大型スポーツ単発により増加。

(単位：百万円)

テレビ番組原価に含まれる主な費用

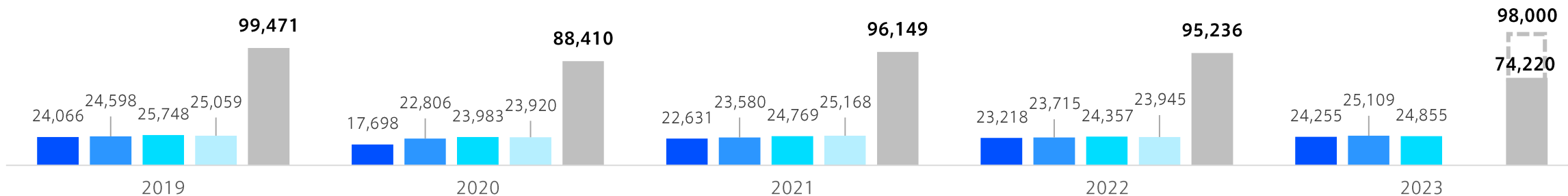
地上波直接費：
番組制作費、放送権料、美術制作費、技術制作費

その他直接費および間接費：
地上波以外の直接費、
減価償却費・社員人件費などの配賦原価

	2022年度実績	2023年度実績	前年差
第1四半期	23,218	24,255	+1,036
第2四半期	23,715	25,109	+1,394
上期	46,933	49,365	+2,431
第3四半期	24,357	24,855	+497
(地上波直接費)	19,389	19,890	+501
(その他直接費及び間接費)	4,967	4,964	△3
第4四半期	23,945	—	—
通期累計	95,236	98,000	+2,763
(地上波直接費)	74,510	77,480	+2,969
(その他直接費及び間接費)	20,726	20,520	△206

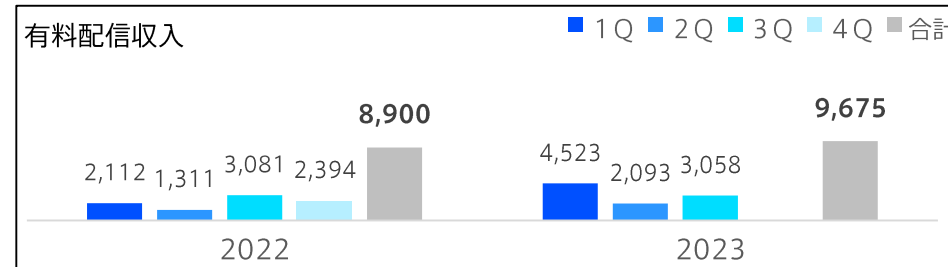
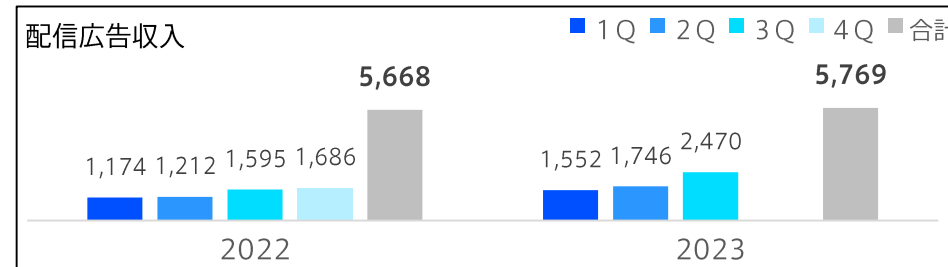
※点線内の通期累計および内訳は、すべて見込みです。

■ 1Q ■ 2Q ■ 3Q ■ 4Q ■ 合計



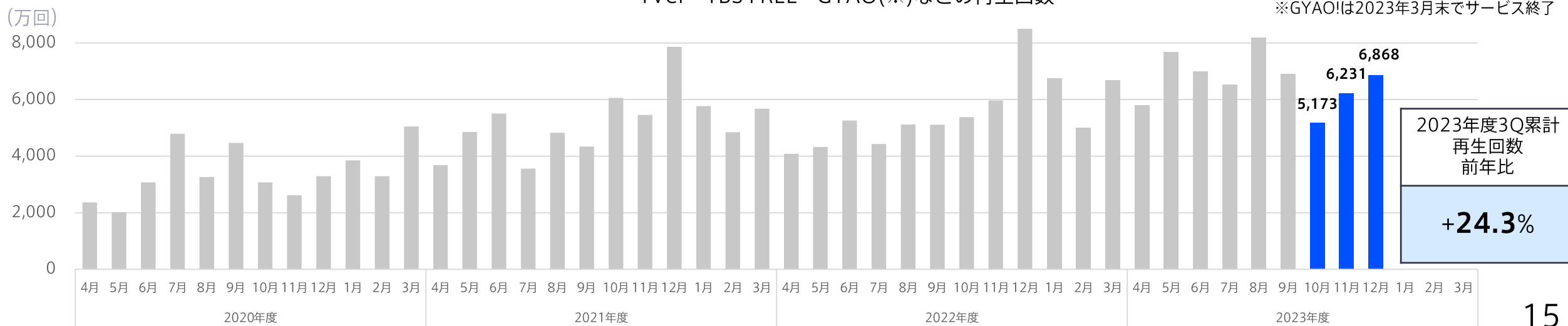
▶ 配信広告収入は、ドラマやバラエティの好調な再生回数を背景に増収。
 有料配信収入は、海外配信（Amazon Original「風雲！たけし城」やNetflixシリーズ「離婚しようよ」など）に加え、U-NEXTでの国内有料配信が好調で増収。
 （単位：百万円）

	2022年度 3Q (4-12月)	2023年度 3Q (4-12月)	前年差	増減率
配信広告収入	3,982	5,769	+1,787	+44.9%
有料配信収入	6,506	9,675	+3,169	+48.7%



TVer・TBS FREE・GYAO(※)などの再生回数

※GYAO!は2023年3月末でサービス終了



(単位：百万円)

部 門	売上高		粗利益		主な増減要因
	2023年度 3Q (4-12月)	前年差	2023年度 3Q (4-12月)	前年差	
アニメ	765	△852	212	△616	前年大ヒットした映画「五等分の花嫁」や、「プラチナエンド」の配信収入の反動で、減収減益。
映画	2,850	+1,331	1,504	+942	劇場版「TOKYO MER ~走る緊急救命室~」の大ヒットなどにより増収増益。
ライブエンタテインメント (旧：催事・興行)	7,454	△1,170	1,224	+151	前年の「パリ・サン=ジェルマン ジャパンツアー2022」の反動で減収したものの、舞台「ハリー・ポッターと呪いの子」のロングラン上演や、Kバレエ「眠れる森の美女」が好調で増益。7月より展覧会事業をTBSグロウディアに移管。
コンテンツビジネス (旧：マーチャндаイジングセンター)	1,334	△256	1,006	△45	DVD「クロサギ」「君の花になる」などが好調だったものの、7月より一部をTBSグロウディアに移管したため、減収減益。
グローバルビジネス	1,689	△402	920	△203	Amazon Original「風雲！たけし城」の世界配信に伴い、たけし城のフォーマット販売が好調だったものの、その他のロイヤリティ収入が振るわず、減収減益。
メディア事業・eスポーツ	2,406	△3,946	602	△1,171	7月以降はテレビ部門に移管。
その他営業費用			△1,310	+316	
部門計	16,502	△5,296	4,160	△628	事業部門全体では、減収減益。

(単位：百万円)

	売上高			営業利益			主な増減要因
	2022年度 3Q(4-12月)	2023年度 3Q(4-12月)	前年差	2022年度 3Q(4-12月)	2023年度 3Q(4-12月)	前年差	
TBSラジオ	6,291	5,968	△322	300	35	△265	イベント収入は好調ながら、 広告収入がタイム・スポットともに 減少し、減収減益。
BS-TBS	12,909	12,864	△44	2,254	2,284	+30	スポット収入およびショッピングが 好調だった一方、事業収入が減収。 営業利益は増益を確保。
TBS グロウディア	20,096	22,714	+2,618	△83	949	+1,033	DVD収入の増加に加え、展覧会事業と TVショッピングなどの一部がTBSテレビ から移管されたこともあり、増収増益。
日音	6,224	6,904	+679	558	655	+96	業務代行収入や邦楽・洋楽収入の増加 などにより、増収増益。
TCエンタ テインメント	5,343	7,635	+2,291	458	765	+306	DVD販売の増加により、増収増益。

雑貨小売販売事業は、化粧品、雑貨などが伸長したことにより、増収。
 通信販売事業は、受注の減少により、減収。
 ビューティ&ウェルネス事業は、化粧品の国内・海外販売が引き続き好調で増収。グループ全体では、増収増益。

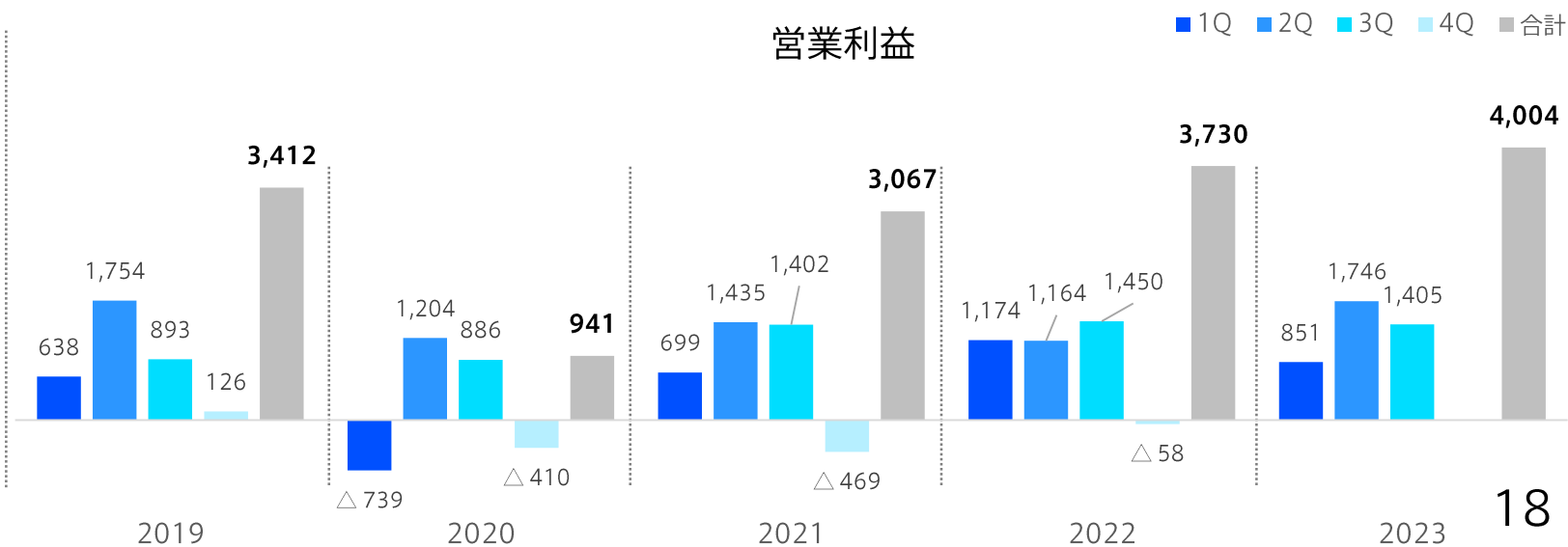
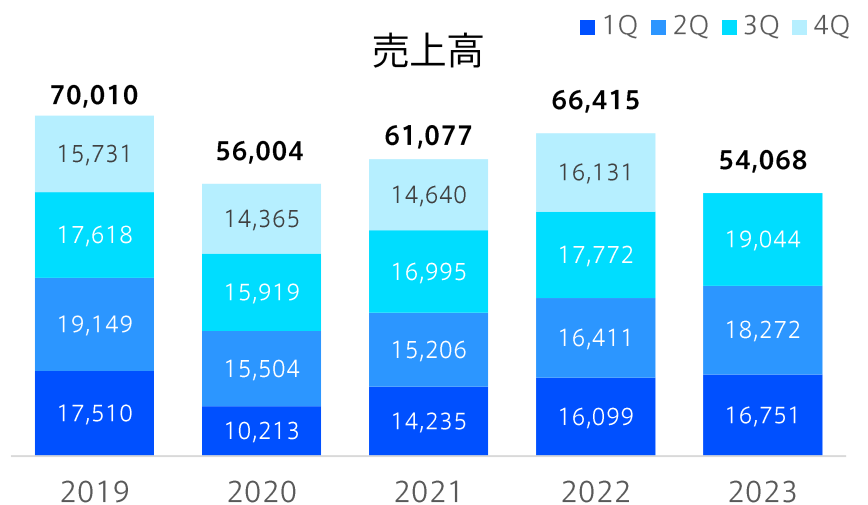
(単位：百万円)

連結	2022年度 3Q(4-12月)	2023年度 3Q(4-12月)	前年差
売上高	50,284	54,068	+3,784
営業利益	3,789	4,004	+214

(単位：百万円)

事業別	売上高(※)		
	2022年度 3Q (4-12月)	2023年度 3Q (4-12月)	前年差
雑貨小売販売事業	27,281	30,757	+3,476
通信販売事業	12,634	12,020	△613
ビューティ&ウェルネス事業	10,610	11,541	+931
本社およびその他	△242	△251	△9
計	50,284	54,068	+3,784

※事業別の売上高は管理会計上の数値



※やる気スイッチグループは国際会計基準（以下、IFRS）を適用しており、連結上ではIFRSを日本基準に組み替えた上で、6～11月の6か月分を取り込んでおります

個別指導塾事業及び幼児教育事業は、教室数及び生徒数増加、加えて9月からの授業料などの値上げにより、両事業共に増収。グループ全体では、事業の順調な成長による増収の一方、TBSグループ入りに伴うトランザクション関連費用(※1) 856百万円が上期に発生した事により、減益。なお、トランザクション関連費用(※1)を除外した営業利益は1,698百万円。

(単位：百万円)

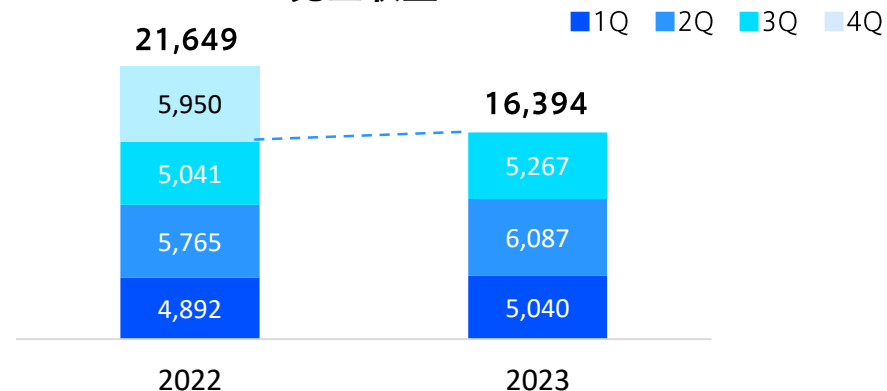
連結	2022年度 3Q (3-11月)	2023年度 3Q (3-11月)	前年差
売上収益	15,699	16,394	+695
営業利益	1,586	842	△744

(単位：百万円)

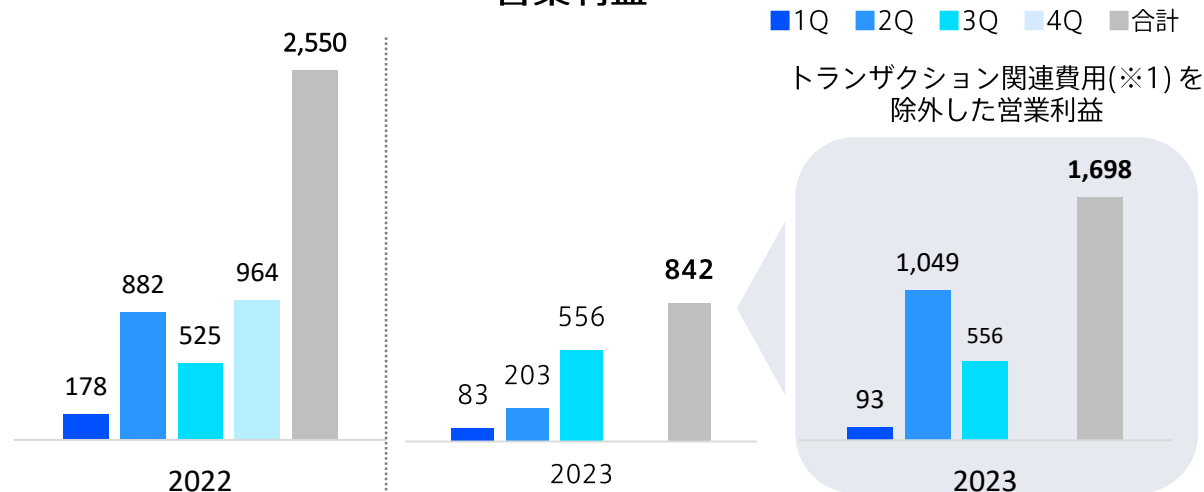
事業別	売上収益*		
	2022年度 3Q (3-11月)	2023年度 3Q (3-11月)	前年差
個別指導塾事業	7,687	7,816	+129
幼児教育事業	8,012	8,578	+566
計	15,699	16,394	+695

* 事業別の売上収益は管理会計上の数値

売上収益



営業利益



(※1) やる気スイッチグループがTBSグループ入りに伴い発生した費用 (IFRS) を指し、連結上では日本基準に組み替えて一部を特別損失に計上しております **19**

2023年度 第3四半期決算ハイライト

2023年度 業績見通し

株主還元

今後の重点施策

参考資料

2023年度 連結業績予想

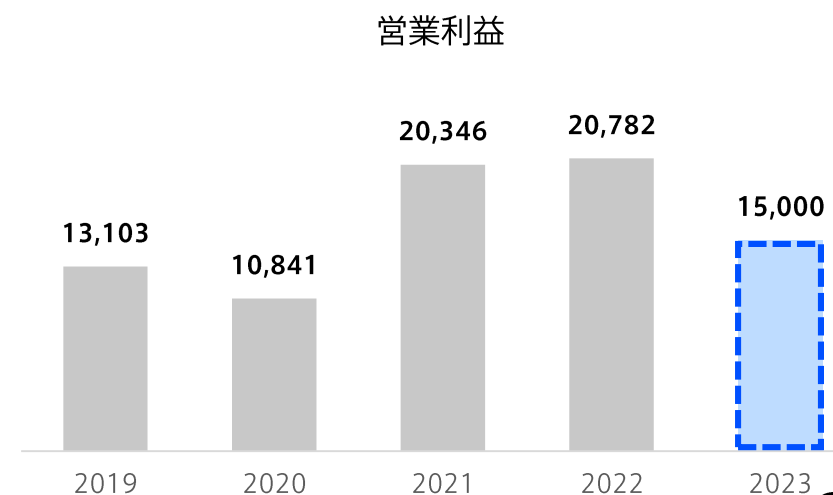
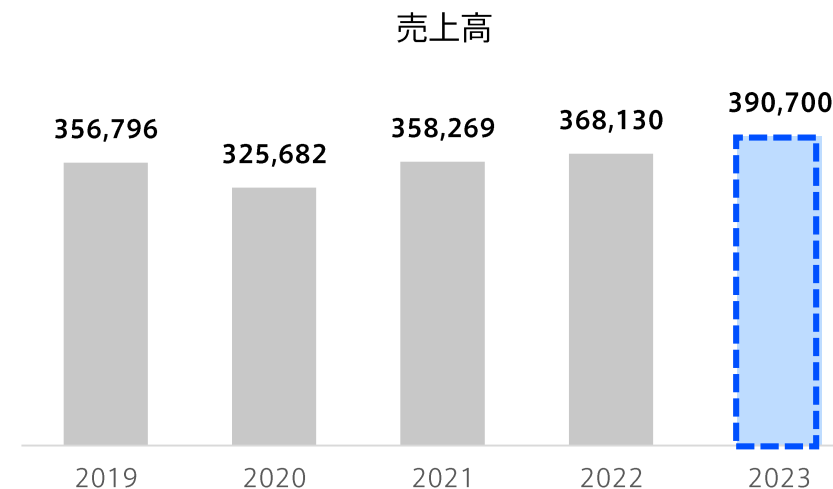
2023年度第2四半期決算発表時（11月10日）より変更なし。

(単位：百万円)

連結	2022年度実績	2023年度予想 (11/10発表)	前年差
売上高	368,130	390,700	+22,569
営業利益	20,782	15,000	△5,782
経常利益	35,086	26,800	△8,286
親会社株主に帰属する 当期純利益	35,182	36,200	+1,018

(単位：百万円)

セグメント別予想	売上高			営業利益		
	2022年度 実績	2023年度 予想 (11/10発表)	前年差	2022年度 実績	2023年度 予想 (11/10発表)	前年差
メディア・コンテンツ	285,230	284,900	△330	10,911	3,900	△7,011
ライフスタイル	66,391	89,200	+22,808	3,064	4,600	+1,535
不動産・その他	16,508	16,600	+91	6,798	6,500	△298
調整額	—	—	—	8	—	△8
連結	368,130	390,700	+22,569	20,782	15,000	△5,782

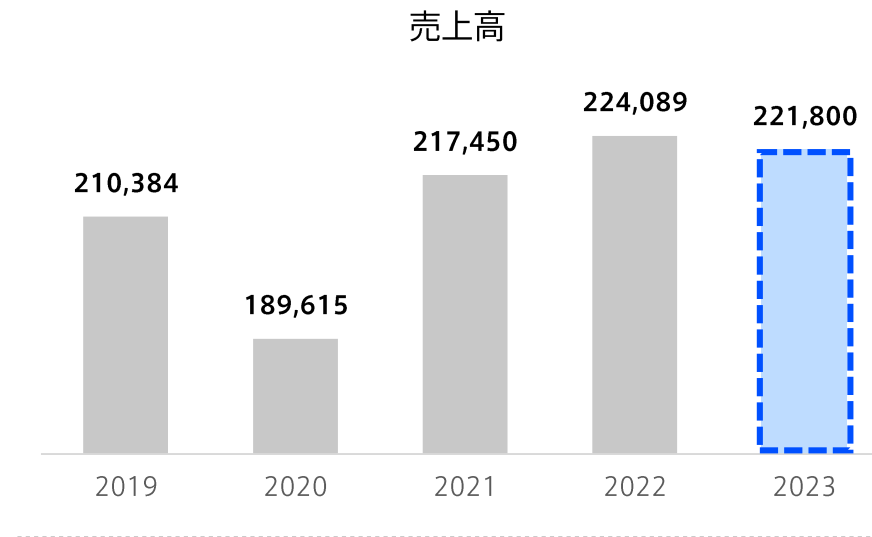


2023年度 TBSテレビ業績予想

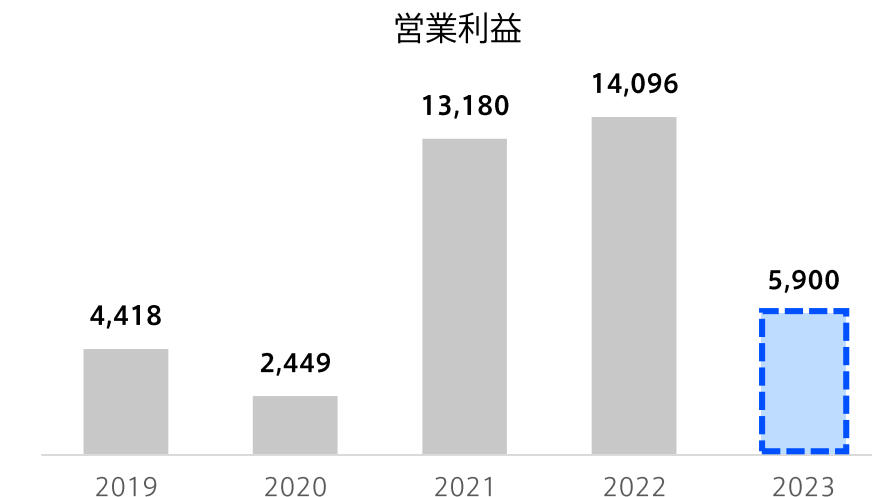
▶ タイム・スポットの予想を変更。
売上高・利益は、2023年度第2四半期決算発表時（11月10日）より変更なし。

(単位：百万円)

TBSテレビ	2022年度実績	2023年度予想 (11/10発表)	前年差
売上高	224,089	221,800	△2,289
営業利益	14,096	5,900	△8,196
経常利益	16,818	8,600	△8,218
当期純利益	10,722	6,400	△4,322



	2023年度3Q累計実績	2023年度予想 (前回予想との比較)
タイム	+2.6%	+1.7% ⇒ +1.9%
スポット	△8.5%	△5.7% ⇒ △6.1%
番組原価 (百万円)	74,220	98,000



2023年度 第3四半期決算ハイライト

2023年度 業績見通し

株主還元

今後の重点施策

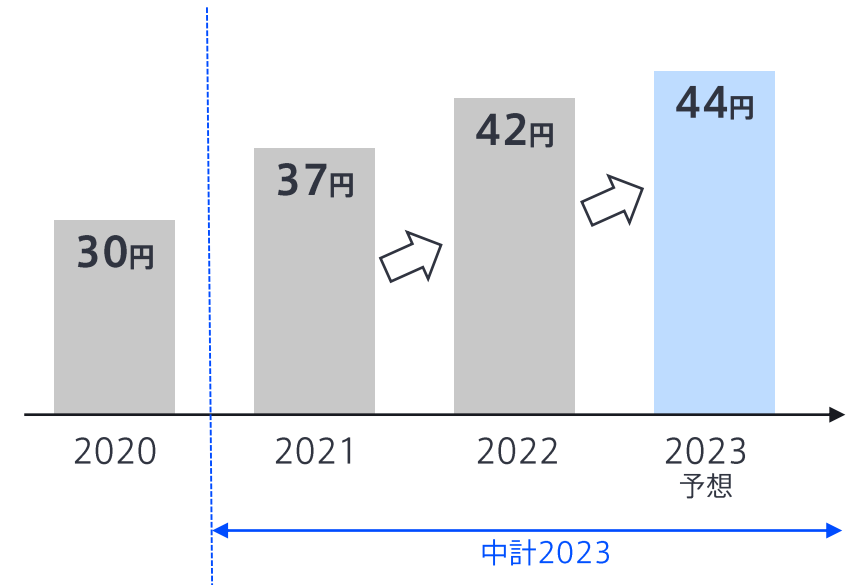
参考資料

基本方針	株主の皆様への利益還元を重要な経営課題と位置づけ、連結ベースの配当性向30%を目処としつつ、安定的かつ継続的な配当を基本とする。業績伸長などの際には、特別配当などにより還元の充実に努める。自己株式取得は、これまで通り機動的に検討する。
-------------	---

中計2023 配当方針	1株当たり30円を下限とする。 ただし、2期連続で当期利益を生まなかった場合は、下限配当金を見直すことがある。
------------------------	--

	1株当たり配当金 (円)			配当性向 (%)	特殊な要因 (★) の影響を除いた配当性向 (%)
	第2四半期末	期末	年間		
2017年度	15	15	30	30.5	30.5
2018年度	16	17	33	22.9	31.7
2019年度	13	17	30	17.3	43.0
2020年度	15	15	30	18.3	59.5
2021年度	15	22	37	19.7	30.9
2022年度	20	22	42	20.1	30.3
2023年度 (予想)	22	22	44	19.9	37.8

(★) 中長期の収益拡大を目指す成長領域への投資の源泉として売却した投資有価証券から生じる売却損益は、配当額を決定する上では「特殊な要因」と位置付けております。



▶ 2023年度は2円増配の44円を予想。引き続き、安定的かつ継続的な配当を実施。配当予想は、2022年度決算発表時（5月12日）より変更なし。

2023年度 第3四半期決算ハイライト

2023年度 業績見通し

株主還元

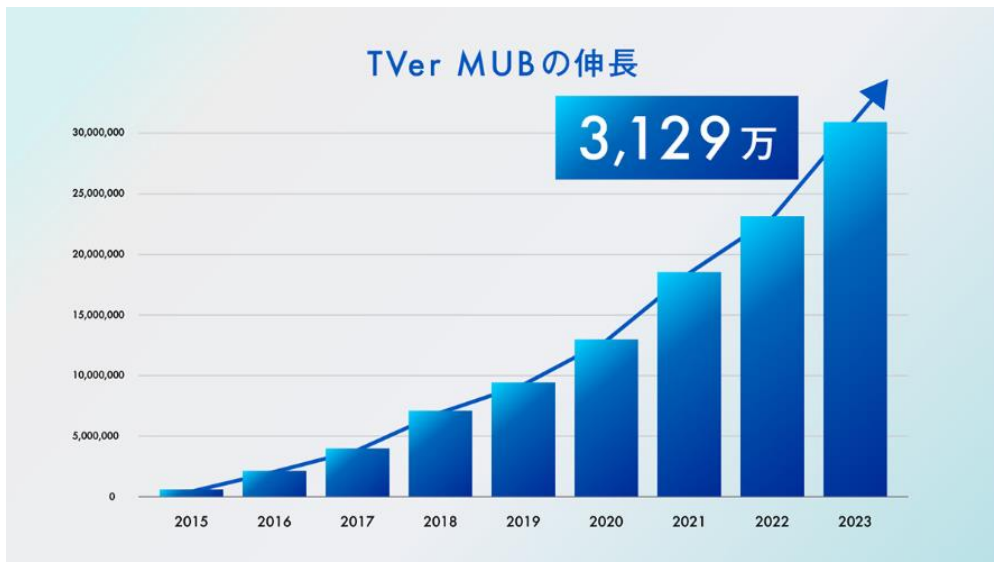
今後の重点施策

参考資料



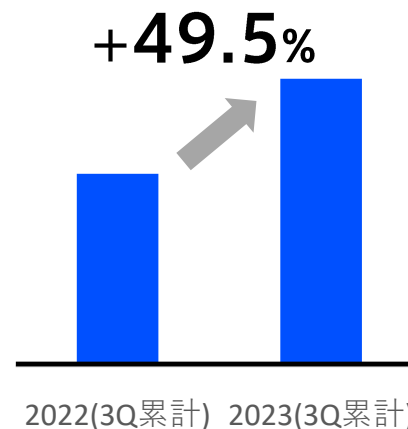
- 月間動画再生数 **3.98**億回を突破
- アプリ累計DL数 **6,500**万DLを達成
- 配信番組数 **750**番組以上 (全局総計)
(※レギュラー番組)

TVerは動画配信プラットフォームとして着実に成長中



出典：TVer+ (2024.1.19)

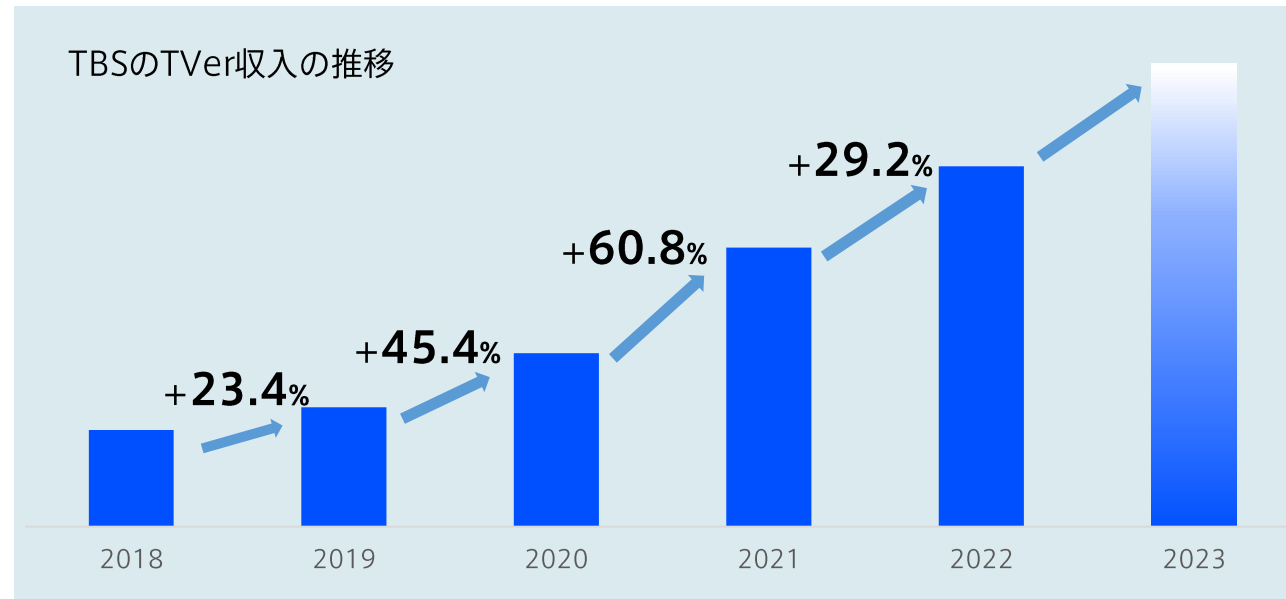
TBS(2023年度 3Q累計)
収入前年比



TBS(2023年度 3Q累計)
業種別ランキング

1	酒・飲料
2	化粧品・トイレットリー
3	エンターテインメント・趣味
4	精密機器・事務機
5	金融
6	医薬品
7	外食・サービス
8	不動産・建設
9	食品
10	情報・通信・放送

TBSのTVer収入の推移





- 2023年6月末にTBSはU-NEXT株式を追加取得し**20%**を保有、持分法適用関連会社化。
- 協業シナジーの創出が相互確認できた場合、さらなる連携強化を図るため、TBSは追加出資によりTBSの議決権比率を**30%**まで高めることが可能。

日曜劇場下剋上球児スピノフ企画
「下剋上セレクション完全版～
ドラマ出演を懸けた熱き予選大会～」

「第32回全日本高等学校
女子サッカー選手権大会」
全31試合 独占配信

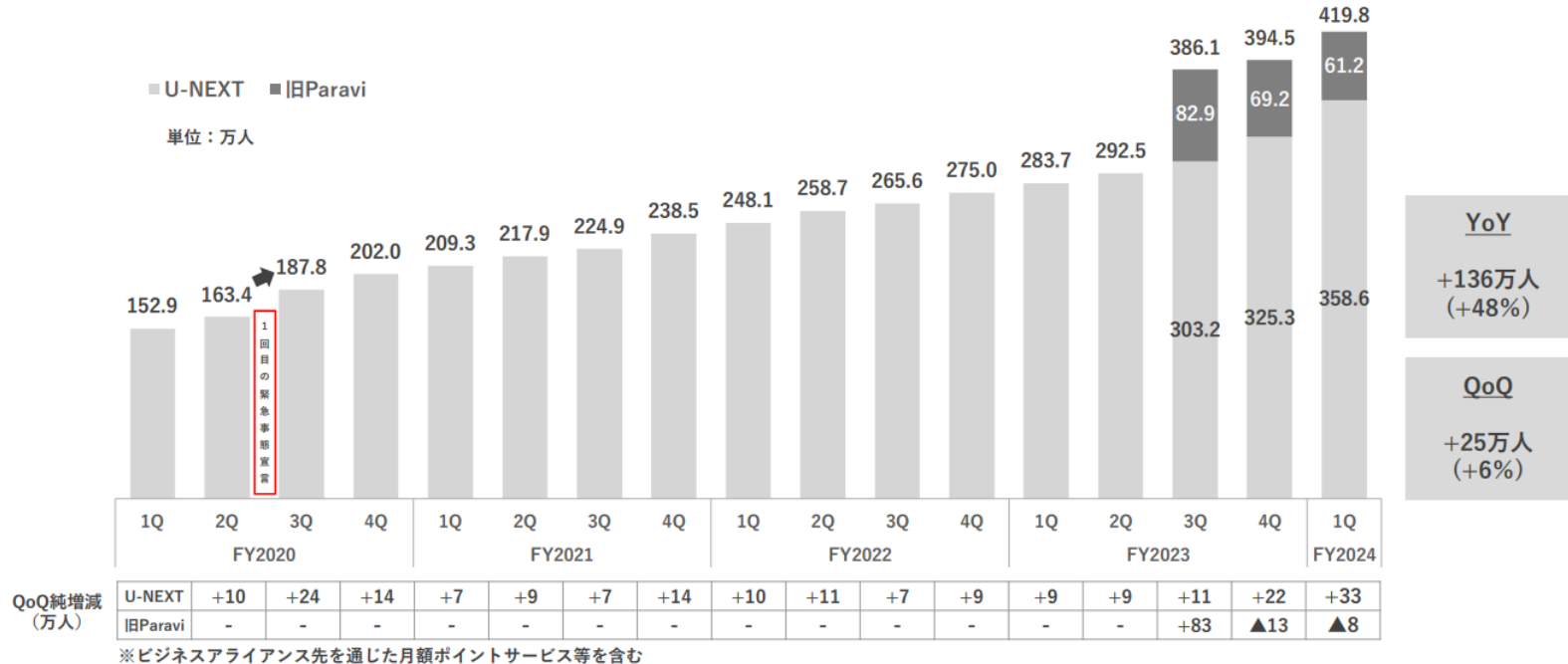


「日曜劇場VIVANT別版
～副音声で福澤監督が語る
VIVANTの世界～」独占配信

「SASUKE2023
出場者100人ノーカット完全版」
独占配信



課金ユーザー数は、2020年8月期第3四半期を上回り、過去最高のユーザー純増を達成



出典：(株)USEN-NEXT HOLDINGS 2024年8月期 第1四半期決算説明資料



THE SEVENのクリエイター達が制作に参加



日本発のシリーズ作品として歴代最高

- Netflix全世界の週間グローバルTOP10（非英語シリーズ）で初登場1位
- 英語を含めた全言語シリーズで全世界2位
- 世界92の国・地域で「今日のシリーズTOP10」入り

Netflixシリーズ「幽☆遊☆白書」

プロデューサー： 森井輝 (THE SEVEN)
 ラインプロデューサー： 下村和也 (/)
 VFXプロデューサー： 赤羽智史 (/)
 ポスプロスーパーバイザー： 石田記理 (/)
 制作協力： THE SEVEN

制作プロダクション： ROBOT
 企画・製作： Netflix



THE SEVEN専用 「M6」スタジオにて撮影順調

Netflixシリーズ「今際の国のアリス Season 3」

プロデューサー： 森井輝 高瀬大樹 (THE SEVEN)
 VFXプロデューサー： 赤羽智史 (/)
 ポスプロスーパーバイザー： 石田記理 (/)
 制作協力： THE SEVEN

企画・制作： ROBOT

松竹株式会社と資本業務提携

アニメーションIP開発および映像コンテンツの共同製作を主軸に据え、両社のシナジー効果を最大限に発揮することで、エンタテインメント企業としての価値を最大化することを目的に、資本業務提携に合意。

業務提携の内容

テレビシリーズ・アニメーション、アニメ映画・実写映画等の映像コンテンツの共同製作

オリジナルIP・キャラクター共同開発及び展開の検討

アニメシアター及び専用イベントホール事業等共同設立及び運営の検討

赤坂エンタテインメント・シティと東銀座再開発提携や新規協業の検討

資本提携の内容

資本業務提携契約締結日	2024年1月26日	
	当社による松竹株式の取得	松竹による当社株式の取得
取得する株式の種類	普通株式	
取得する株式の取得価額の総額	3,000百万円 (上限)	3,000百万円 (上限)
取得する株式の総数 ※2023年12月29日終値による試算	314千株 (発行済株式総数の2.26%)	1,000千株 (発行済株式総数の0.59%)
取得方法	市場買付、または相対取引を通じた買付	
取得完了時期	2024年6月30日 (予定)	

ドラマ化やアニメ化も視野に、世界へ！ オリジナル・ウェブトゥーン作品を開発

Studio TooN 初連載作品「ああ、恋愛したい」
LINEマンガにて配信スタート



縦読み電子マンガ・ウェブトゥーン制作会社「Studio TooN」

世界を視野にしたオリジナル・ウェブトゥーン作品を開発する
目的で、TBSと、韓国最大手のIT企業NAVERのグループ会社
NAVER WEBTOON社、マンガ制作会社SHINE Partners社の
3社合弁で、2022年、韓国ソウルに設立。



概要

2022年5月設立
社員34人（2023年12月現在）
本社所在地：韓国ソウル
代表取締役CEO：岩本炯沢
代表取締役会長：長生啓（TBSテレビ）
主な業務内容：
電子マンガwebtoonの
企画・開発・制作・著作権管理

今後も、多様なジャンルのウェブトゥーン作品を順次発表、日韓のみならず**世界**へ配信していく予定

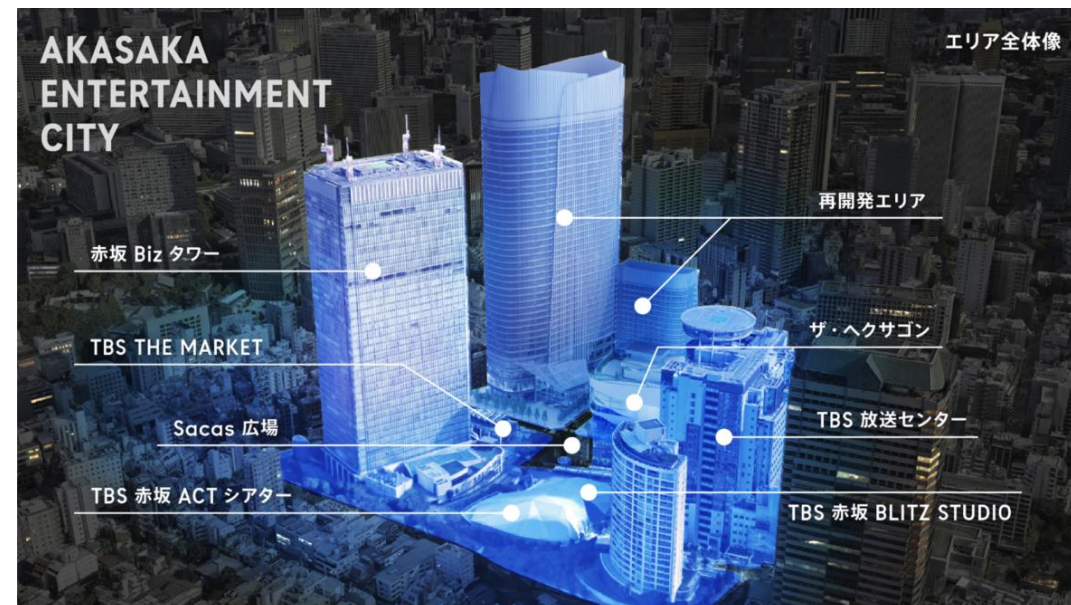
●今後の主なラインアップ

2024/2/8 現在

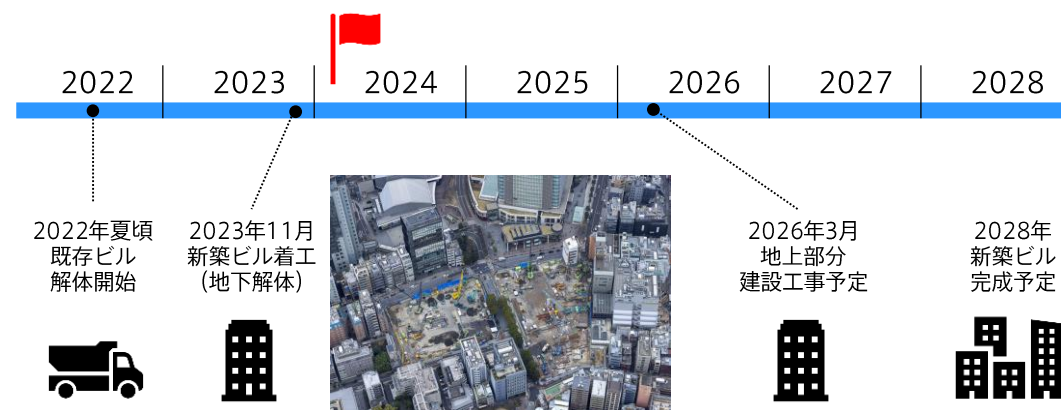
	期間	タイトル	備考
映画	2024/3/8公開	マイホームヒーロー	配給：ワーナー ブラザース
	2024/5/31公開	からかい上手の高木さん	配給：東宝
	2024/6/21公開	九十歳。何がめでたい	配給：松竹
	2024年 夏公開	ラストマイル	配給：東宝
	2024年 秋公開	スマホを落とすだけなのに ～最終章～ ファイナルハッキングゲーム	配給：東宝
興行	2022/7/8～ロングラン	舞台「ハリー・ポッターと呪いの子」	TBS赤坂ACTシアター
	2024/2/6～25	舞台「中村仲蔵 ～歌舞伎王国 下剋上異聞～」	東京建物 Brillia HALL
	2024/2/17	スナックUJU 東京ドーム店	東京ドーム
	2024/2/10,3/20	TBS日曜劇場「VIVANT」オーケストラコンサート	LINE CUBE SHIBUYA (渋谷公会堂) など
	2024/3/16,17,20,23,24	熊川哲也 K-BALLET TOKYO Spring 2024 「ジゼル」	Bunkamuraオーチャードホール
	2024/3/30～31,4/5～7	スターズ・オン・アイス 2024	東和薬品RACTABドーム / 横浜アリーナ
	2024/4/1～14	舞台「銀行強盗にあって妻が縮んでしまった事件」	日本青年館ホール
	2024/4/10～21	マシュー・ボーンの「ロミオ+ジュリエット」	東急シアターオーブ
	2024/4/25～5/5	ブロードウェイミュージカル「シカゴ」来日公演2024	東急シアターオーブ
	2024/5/24～26	熊川哲也 K-BALLET TOKYO Spring 2024 「カルミナ・ブラーナ」	Bunkamuraオーチャードホール
	2024/6/1,2,8,9	熊川哲也 K-BALLET TOKYO Spring 2024 「ラ・バヤデー」	Bunkamuraオーチャードホール
2024/7/27～8/1, 8/2～10/26,11/9～11/24	ミュージカル「ビリー・エリオット～リトル・ダンサー～」	東京建物Brillia HALL など	
催事	2024/3/16～2024/6/16	大哺乳類展 3	国立科学博物館



※青字部分は2028年竣工予定の再開発エリア（写真・イラストはイメージです。）



再開発エリアの工事スケジュール



PLAZASTYLE

2024年1月19日(金)から1月28日(日)の期間、
心齋橋PARCO 5FにてTBSストアのPOP UPを開催。

TBS系列で全国放送中のライフアイデア発見バラエティ
「ラヴィット！」に出演する人気キャラクターの
「ラッピー」をはじめ、話題の番組グッズの展示や、
ここでしか買えない限定アイテムを販売しました。

TBS STORE POP UP

期間限定販売
1.19 FRI - 1.28 SUN



あなたの街にPLAZAがやってくる！

PLAZA
IKEBUKURO
Sunshine City
alpa
OPEN
2023.11.17 THU.

PLAZA
TAMAPLAZA
TERRACE
**RENEWAL
OPEN**
2024.3.15 FRI.
2024.1.14 SUN. CLOSE

PLAZA
CoCoLo
NIIGATA
OPEN
2024.4.25 THU.

PLAZA
AOMORI
& LOVINA
OPEN
2024.4.26 FRI.



たまプラーザテラス店 (店内イメージ)

更なるブランド力の飛躍

- 売上高ランキングにて
学習塾・予備校部門で3年連続首位達成
- 個別指導塾「スクールIE®」
2023年 オリコン顧客満足度®
ランキング受賞



その他の取り組み

- 価格改定の実施について
昨今の物価高により、教室・スクール運営に関するコストの上昇が続いており、また今後も継続的な物価上昇が見込まれている。この様な状況下において、2023年9月以降のサービス提供分より授業料等で全ブランド対象に概ね5%の値上げを実施した。



新規開校状況

2023年度
累計開校件数
30校 開校



- 9月開校
- FC 枚方公園駅前校(大阪)
 - FC 東本校(愛媛)
- 10月開校
- FC 下総中山校(千葉)
 - FC 小笹校(福岡) etc.
- 11月開校
- 直営 茅場町校(東京)
 - FC 和泉中央校(大阪) etc.

2023年度
累計開校件数
95 ラボ開校



- 9月開校
- FC 読谷ラボ(沖縄)
 - FC 鈴鹿住吉ラボ(三重) etc.
- 10月開校
- FC 近文ラボ(北海道)
 - FC 新潟江南ラボ(新潟) etc.
- 11月開校
- FC 国府ラボ(徳島)
 - FC 熊谷石原ラボ(埼玉) etc.

2023年度
累計開校件数
3 校 開校



- 9月開校
- FC 中村橋校(東京)

2023年度
累計開校件数
1 園 開園



2023年度
累計開校件数
5 校 開校



- 10月開校
- FC 豊中ロマンチック街道(大阪)
- 11月開校
- 直営 スクエア東京(東京)
 - FC 芦屋(兵庫)

▼9/18開校 スクールIE 枚方公園駅前校



▲11/3開校 Kids Duo スクエア東京

注1.) 2023年3月~11月末間での累計開校件数、2023年9月~11月末間で開校した教室/ラボを紹介

「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」に選定

ESGに積極的に取り組んでいる日本企業を対象にした株価指数「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」の選定基準を満たし、構成銘柄に初選定。

当インデックスは、年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）が、ESGパッシブ運用ベンチマークとして採用。



**FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index**

FTSE Russell (FTSE International Limited と Frank Russell Company の登録商標)はここに TBS ホールディングスが第三者調査の結果、FTSE Blossom Japan Sector Relative Index 組み入れの要件を満たし、本インデックスの構成銘柄となったことを証します。FTSE Blossom Japan Sector Relative Index はサステナブル投資のファンドや他の金融商品の作成・評価に広く利用されます。 <https://www.ftserussell.com/products/indices/blossom-japan>

ブランドメッセージ「ときめくときを。」 キービジュアル決定



2023年度 第3四半期決算ハイライト

2023年度 業績見通し

株主還元

今後の重点施策

参考資料

連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2023年 3月末	2023年 12月末	比較		2023年 3月末	2023年 12月末	比較
流動 資産	209,058	159,801	△49,256	流動 負債	104,059	87,529	△16,529
				固定 負債	167,621	247,408	+79,786
				負債 合計	271,681	334,937	+63,256
固定 資産	858,807	1,128,470	+269,663	純資産 合計	796,184	953,334	+157,150
				自己 資本	780,667	941,571	+160,904
				非支配 株主持分	15,517	11,762	△3,754
資産 合計	1,067,865	1,288,272	+220,406	負債 純資産 合計	1,067,865	1,288,272	+220,406

四半期末有利子負債残高： 38億円 (2023年3月末比 △161億円)

※リース債務は除く

新ファミリーコアは、GP帯で、1997年の個人視聴率調査開始以降初の2位

●新ファミリーコア（4～49歳）

	TBS	日本テレビ	テレビ朝日	テレビ東京	フジテレビ
ゴールデン帯	3.1	4.7	2.5	1.4	3.0
プライム帯	3.0	4.4	2.5	1.2	2.9

●個人全体（ALL）

	TBS	日本テレビ	テレビ朝日	テレビ東京	フジテレビ
ゴールデン帯	4.3	5.6	5.5	3.0	3.7
プライム帯	4.2	5.2	5.5	2.6	3.6

新ファミリーコア視聴率 (4~49歳)

(※ []内は前年差 単位：%)

	全日	ゴールデン	プライム	ノンプライム
TBS	③1.5[0.0]	②3.0 [△0.1]	②2.9 [△0.1]	③1.0 [△0.1]
日本テレビ	①2.6	①4.6	①4.3	①2.1
テレビ朝日	④1.2	④2.2	④2.2	④0.8
テレビ東京	⑥0.5	⑤1.4	⑤1.2	⑥0.3
フジテレビ	②1.7	②3.0	②2.9	②1.3
NHK	⑤0.7	⑤1.4	⑤1.2	⑤0.5
PUT	9.0[△0.8]	17.1 [△1.2]	16.1[△1.3]	7.0 [△0.6]

(2023/4/3 ~ 2023/12/31 : 週ベース)

(ビデオリサーチ調べ：関東地区)

(※ []内は前年同期差 単位：%)

	全 日	ゴールデン	プライム	ノンプライム
T B S	④2.6 [△0.2]	④4.1 [△0.2]	④4.0 [△0.2]	④2.2 [△0.2]
日本テレビ	②3.4	①5.5	②5.1	②2.9
テレビ朝日	①3.5	②5.2	①5.2	①3.0
テレビ東京	⑥1.2	⑥3.0	⑥2.6	⑥0.8
フジテレビ	⑤2.3	⑤3.7	⑤3.6	⑤1.9
N H K	③2.9	③4.9	③4.2	③2.5
P U T	18.7 [△0.9]	31.0 [△1.3]	28.9 [△1.4]	15.8 [△0.7]

(2023/4/3 ~ 2023/12/31 : 週ベース)

(ビデオリサーチ調べ：関東地区)

TBSテレビ タイム・スポット収入 対前年比

TBS

(単位：百万円)

	タイム			スポット				備 考
	2023年度	前年差	増減率	2023年度	前年差	増減率	地区投下 (推計)	
4月	7,229	+193	+2.7%	7,201	△179	△2.4%	△5.0%	タイムは、レギュラーセールス好調。
5月	6,380	△179	△2.7%	6,488	△711	△9.9%	△8.3%	
6月	6,055	+86	+1.4%	5,951	△976	△14.1%	△9.5%	スポットは、市況が落ち込む中、好調だった昨年の反動で減収。
7月	6,388	△2,153	△25.2%	6,270	△326	△5.0%	△11.9%	タイムは、世界陸上オレゴン大会（2022年）の反動で減収。
8月	7,563	+1,609	+27.0%	5,004	△664	△11.7%	△8.9%	タイムは、世界陸上ブダペスト大会（2023年）で増収。
9月	6,941	+893	+14.8%	5,289	△701	△11.7%	△8.4%	タイムは、アジア大会中国・杭州（2023年9月分）で増収。
10月	7,559	+782	+11.6%	6,526	△755	△10.4%	△2.1%	タイムは、アジア大会中国・杭州（2023年10月分）で増収。
11月	6,621	△25	△0.4%	7,260	△548	△7.0%	△6.5%	
12月	7,314	+374	+5.4%	7,218	△442	△5.8%	△5.4%	タイムは、年末年始セールス（12月分）過去最高により増収。
1月								
2月								
3月								
1Q	19,665	+99	+0.5%	19,641	△1,867	△8.7%	△7.5%	
2Q	20,893	+349	+1.7%	16,565	△1,691	△9.3%	△9.8%	
3Q	21,495	+1,132	+5.6%	21,005	△1,746	△7.7%	△4.7%	
4Q								
通期	62,054	+1,581	+2.6%	57,211	△5,306	△8.5%	△7.2%	

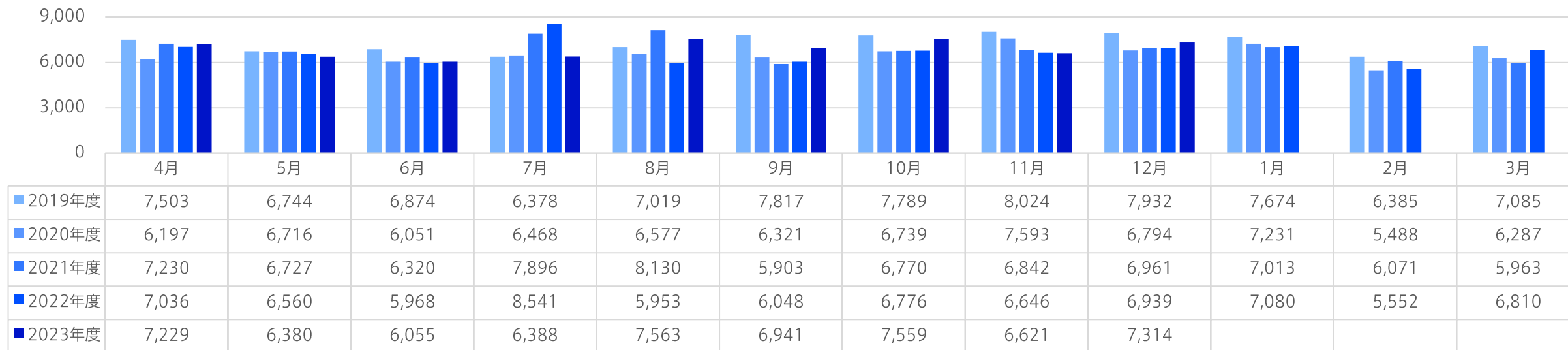
●スポット5局シェア（推計） 四半期推移

2019年度 19.3% (累計)				2020年度 19.7% (累計)				2021年度 20.1% (累計)				2022年度 20.6% (累計)				2023年度 20.6% (累計)			
1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
20.2	19.2	19.0	18.9	20.5	20.2	19.4	19.3	20.4	20.3	19.7	20.0	21.2	20.6	20.9	19.6	20.9	20.6	20.2	

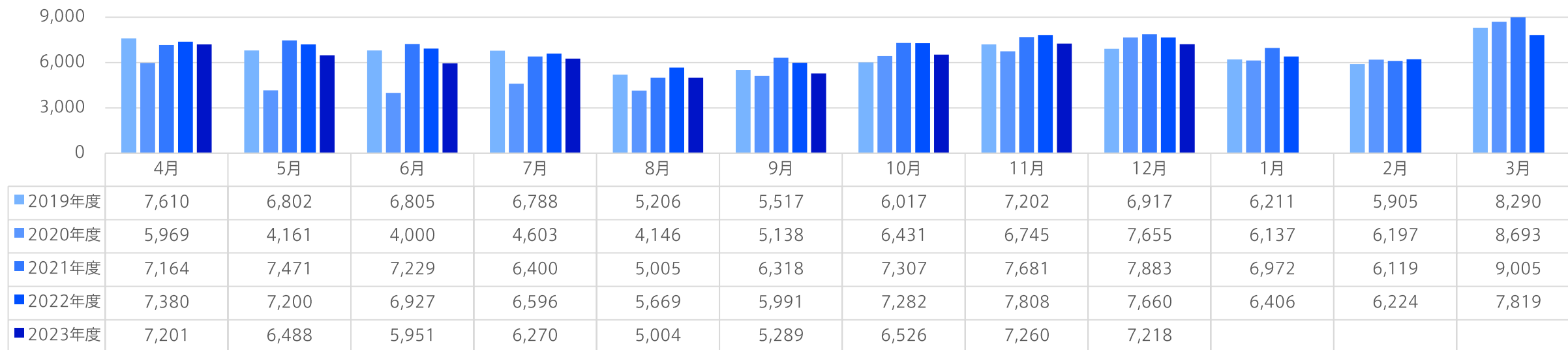
TBSテレビ タイム・スポット収入 経年推移

(単位：百万円)

●タイム収入



●スポット収入



(単位：%)

	2023年度 3Q(4-12月)	増減率	シェア	2022年度 3Q(4-12月)	増減率	シェア
1	情報・通信・放送	△14.6	16.7	情報・通信・放送	△8.8	18.0
2	酒・飲料	+7.7	11.6	酒・飲料	△7.7	9.9
3	食品	△4.8	9.3	外食・サービス	+41.2	9.5
4	外食・サービス	△22.8	8.0	食品	+5.3	9.0
5	医薬品	△2.3	7.7	医薬品	△4.5	7.3
6	交通・レジャー	+16.9	5.9	金融	+0.9	5.1
7	化粧品・トイレットリー	+8.8	5.6	化粧品・トイレットリー	△35.0	4.7
8	金融	△13.4	4.8	交通・レジャー	+22.6	4.6
9	エンタテインメント・趣味	+14.4	4.8	精密機器・事務機器	+1.2	4.1
10	不動産・建設	△14.1	3.7	不動産・建設	+10.4	4.0

※ 順位は金額順

メディア・コンテンツ/不動産・その他(1社)

(株) TBSテレビ

メディア・コンテンツ(13社)

(株) TBSラジオ

(株) BS-TBS

(株) CS-TBS

(株) TBSスパークル

(株) TBSグローディア

(株) TBSアクト

(株) Seven Arcs

TCエンタテインメント(株)

TBS International, Inc.

(株) TBSメディア総合研究所

(株) 日音

(株) マンガボックス

(株) THE SEVEN

ライフスタイル(7社)

(株) スタイルングライフ・ホールディングス

(株) CPコスメティクス

(株) ライトアップショッピングクラブ

(株) やる気スイッチグループホールディングス

(株) やる気スイッチグループ

(株) やる気スイッチキャリア

(株) YPスイッチ

不動産・その他(5社)

赤坂熱供給(株)

(株) TBS企画

(株) TBSサンワーク

(株) TBSヘクサ

(株) 緑山スタジオ・シティ

持分法適用(6社)

(株) リトプラ

(株) WOWOW

碧芯珞(上海)化粧品有限公司 / BCL China Inc.

(株) Amazing Sports Lab Japan

(株) YGC

(株) U-NEXT